

利活用の方向性に関する意見

第3回ワークショップで出された参加者の意見とそれに対する県としての考えです。 **第3種陸上競技場、多目的広場**

- ★国体後、人工芝にしてほしい。また、簡易なものでも良いので照明設備を導入してほしい。
- ★通年利用ができ、夜間利用ができる多目的広場を現状以上確保してほしい。

<考え方>
○第1種と第3種の陸上競技場は天然芝と規定されているので、人工芝にすることはできません。また、第3種陸上競技場の照明設備は、周辺景観や周辺の住環境への配慮から設置しません。金亀公園の多目的広場については彦根市にお伝えします。

庭球場

- ★騒音、光害が心配なので、場所を再考してほしい（南側の駐車場と場所を入れ替えるなど）。

<考え方>
○騒音等の問題については慎重に検討します。

第1種陸上競技場

- ★避難場所として屋内に普段から利用できる宿泊施設が必要ではないか。

<考え方>
○避難場所としては会議室等の利用を検討します。

駐車場

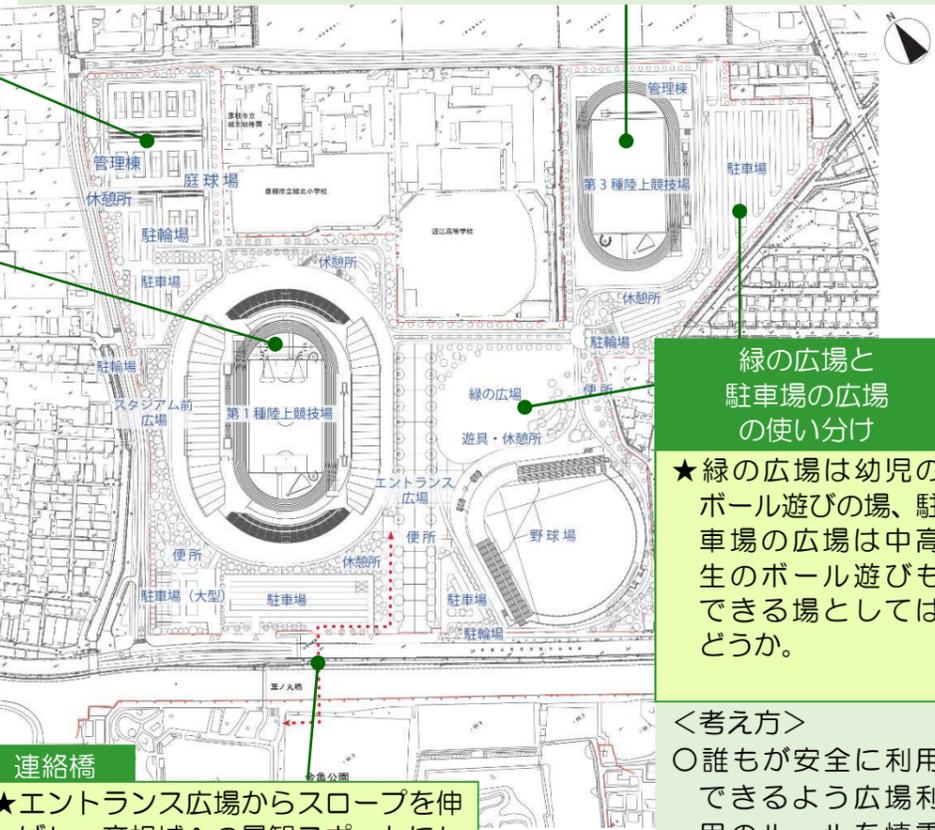
- ★金亀公園の駐車場を増やしてほしい（夜間利用が多い）。

<考え方>
○彦根市にお伝えします。また、彦根市と県公園の駐車場の一体的な利用も検討します。

民間活力の導入

- ★サイクルステーションを設置して、琵琶湖周遊の拠点としてほしい。宿泊施設（100～200人規模）も設けて県外からの来訪者も呼び込めば、集客力向上につながる。
- ★カフェやサイクルステーションなどのスペースを確保しておく。（第1種陸上競技場等）
- ★競技場の複合的な機能の利用は補助金交付があり、その活用も検討してほしい。

<考え方>
○企業等へのヒアリング調査など民間活力の導入に向けて慎重に検討します。



緑の広場と駐車場の広場の使い分け

- ★緑の広場は幼児のボール遊びの場、駐車場の広場は中高生のボール遊びもできる場としてはどうか。

<考え方>
○誰もが安全に利用できるよう広場利用のルールを慎重に検討します。

連絡橋

- ★エントランス広場からスロープを伸ばし、彦根城への景観スポットにしてほしい。

<考え方>
○彦根城との調和に配慮し、彦根城への景観スポットとなるよう彦根市と一緒に検討します。

今回のワークショップはこれで終了です。ありがとうございました！

ワークショップに関する問合せ先

滋賀県 県民生活部 スポーツ課 担当：大橋・長坂・北川
住所：〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号
TEL：077-528-3363 Fax：077-528-4832
E-mail：kokutai@pref.shiga.lg.jp

(仮称)彦根総合運動公園整備事業 みんなで考える公園づくり ワークショップ ニュース3

日ごとに日が短くなり、だんだんと秋めいてきました。
滋賀県では平成36年に開催される第79回国民体育大会と第24回全国障害者スポーツ大会のメイン会場となる「(仮称)彦根総合運動公園」の整備計画づくりに取り組んでおり、より良い公園づくりに向けて、みなさまのアイデア、ご意見をお聞かせいただく、ワークショップ（全3回）を開催しました。

8月27日に第3回ワークショップを開催し、これまで2回のワークショップで考えた利活用のさまざまなアイデアをまとめるために意見交換を行いました。

平成28年9月 滋賀県



●ワークショップとは
みんなでワイワイとアイデアや意見を出し合い、より良い公園づくりを考えます。

ワークショップの様子と内容をニュースにまとめました！

第3回ワークショップの様子

日時：8月27日（土） 10:00～12:10
場所：県立彦根総合運動場内 スイミングセンター大会議室
参加者：9名



① 前回のおさらいの後、これまでのアイデアに関して県としての考え方の説明がありました。



② これまでのワークショップのまとめについて、グループで検討しました。

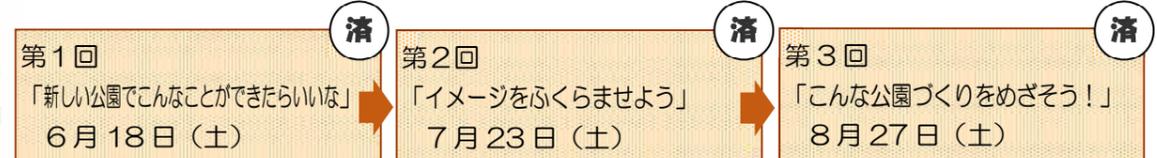


③ 今回も活発な議論となりました。今回の議論をふまえてワークショップの成果とします。

参加者の感想

- ・ 現状から機能が減ってしまうことについて、もう少し、住民・競技団体の意見を反映していただきたいです。
- ・ 3回を通しての参加者が少なかった。実現してほしい。
- ・ 運動公園の方向性が見えてきました。
- ・ 今後が楽しみ。
- ・ 在学中に工事が開始されることを願っています。
- ・ 県と市が一体となって良い公園にしてください。
- ・ 1つでもワークショップで話したことが実現するように見守っていきます。
- ・ 「だれが、いつ、なんのために」がポイントだと思う。国体後の方が使う時間は長いです。

ワークショップの流れ



公園整備の基本的な考え方 ～基本計画より

県民のスポーツ拠点として機能を強化するとともに、世代をこえて人々に長く愛着を持って利用される多様な機能を備えた公園として、彦根城をはじめとする周辺の景観などと調和を図りながら再整備する。

A：国体開催を契機とした県民のスポーツ拠点としての機能強化

交通アクセスの良さを活かして、県民のスポーツ拠点として整備を行い、日常的にスポーツを楽しむことができる。

B：国体開催後も世代をこえて人々に愛着をもって利用される多様な機能を備えた公園整備

だれもが気軽に、そして安全に安心して利用でき、健康づくりに寄与する公園を整備する。また、環境に配慮し、防災機能の強化を図るとともに、観光資源や地場産業との連携による地域活性化に寄与する公園整備に向けて住民参画のもと取り組む。

C：彦根城をはじめとする周辺の景観に調和した公園整備

世界遺産登録を目指す彦根城など歴史的・文化的な景観に調和した公園を整備する。また、公園整備にあたり、周辺の住環境に配慮した施設計画に取り組む。

通常時の公園利活用の基本的な考え方 ～ワークショップで考えた公園の利活用

誰もが自由に楽しめる公園

スポーツ拠点としてさまざまなスポーツ・運動をするとともに、誰もが日常的に立ち寄り、自由に楽しめる公園にしてほしい。また、観光客やサイクリングの人など、県外の人も立ち寄って彦根を楽しめる公園にしてほしい。

■ 気軽にスポーツを楽しめる公園

スポーツ・運動

- 陸上競技場や庭球場、金亀公園の多目的広場では、専門的な競技スポーツをするだけでなく、県民が日常的に、いろいろなスポーツや運動を気軽に楽しんだり、練習できる公園
- また、各利用団体の会議等にも対応



■ 日常的にふらっと立ち寄れる公園

日常の自由利用

- 緑の広場でピクニックをしたり、ボール遊びや遊具遊びをしたり、バーベキューをしたり、ジョギングをしたり、部活帰りに立ち寄るなど、いろいろな人が日常的にふらっと立ち寄り、思い思いに楽しめる公園



■ 様々なイベントを実施し、多くの人を訪れる公園

イベント

- 陸上競技場や広場などで、地域のイベントやマルシェ、朝市、運動会、防災訓練、大規模な飲食イベント、お城まつり規模のイベントなど県内外の人が行きたくなくなるさまざまなイベントが開催される公園
- 収益にもつなげる



■ 彦根城や水辺周遊と一体的に観光利用ができる公園

観光・周遊

- 彦根城などの歴史文化遺産や日本遺産に認定されている「琵琶湖とその水辺景観」等を活かし、公園を観光ルートや周遊コースに含みながら、観光客やサイクリングの人が立ち寄って、憩い、楽しむ公園



■ 彦根らしい四季・自然・景観を感じる公園

自然・景観

- サクラや紅葉など四季が感じられる豊かな緑に加え、彦根の景観を特徴づける彦根城や佐和山、伊吹山など、歴史や自然景観を感じられる公園



公園の利用分担イメージ ～金亀公園・彦根城との一体的な利用

より多くの人に使ってもらえる、県内の代表的な公園とするため、金亀公園・彦根城と一体的に利用できる公園にしてほしい。また、一般利用に関しては金亀公園との役割分担を明確にし、多目的広場などの利用方法の住み分けをしてほしい。各施設、広場、園路は分断させず、連携してほしい。



誰もが、日常的に楽しめる公園にするために ～使いやすいするための工夫

誰もが、日常的に楽しめる公園とするため、金亀公園と一体的に以下のような整備・運営の工夫を検討してほしい。

- ★見通し良く、オープンにし、安全で入りやすい雰囲気づくり
- ★彦根城など周辺環境との調和
- ★天然芝だけでなく、養生期間が必要ない土や人工芝などの場の検討
- ★民間活力の導入により、県内外の人を呼び込めるカフェやサイクルステーションなどの施設整備
- ★園路に距離表示の設置
- ★緑の広場の近くに駐車場を配置する等、使いやすい施設の配置の検討
- ★バリアフリーに対応した公園
- ★ボール遊びも含めて、安全にさまざまな利用ができるようなルールづくり

※アイデア例には、公園整備基本設計に反映できないものもあります。